



文化遺産としての大衆的イメージ - 近代日本における視覚文化の美学美術史学的研究 -

著者	金田 千秋
発行年	2012
その他のタイトル	Popular Imagery as Cultural Heritage : Aesthetical and Art Historical Studies of Visual Culture in Modern Japan
URL	http://hdl.handle.net/2241/118385

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 10 日現在

機関番号：12102
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20320020
 研究課題名（和文）文化遺産としての大衆的イメージ —近代日本における視覚文化の美学美術史学的研究—
 研究課題名（英文）Popular Imagery as Cultural Heritage: Aesthetical and Art Historical Studies of Visual Culture in Modern Japan
 研究代表者
 金田 千秋（KANEDA CHIAKI）
 筑波大学・芸術系・教授
 研究者番号：80224624

研究成果の概要（和文）：

本研究は、大正期に流通していた大衆的な視覚表象に関する 2 つの課題を、豊かな対話関係において、遂行するものである。すなわち、第 1 の課題は、大衆的な視覚表象が果たしていたメディア的な機能の多様性を、可能な限り広範な資料に基づいて、美術史学的に明らかにすることである。第 2 の課題は、「文化遺産」の概念を鍛え上げることによって、何らかの大衆的イメージが後世に継承される／るべきさいの条件・方法などを、美学的に考察することである。

研究成果の概要（英文）：

This research project cooperatively investigates two subjects regarding the popular visual representations distributed in Taishō period (1912-1926). The first is to examine the variety of their media functions, based on the exploration of the broader materials through art historical method. The second is to speculate the conditions and the ways in which a certain popular image is and/or should be inherited to the later ages, by profoundly reflecting the concept of “cultural heritage” through aesthetical method.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008 年度	3,700,000 円	1,110,000 円	4,810,000 円
2009 年度	3,300,000 円	990,000 円	4,290,000 円
2010 年度	4,300,000 円	1,290,000 円	5,590,000 円
2011 年度	2,300,000 円	690,000 円	2,990,000 円
年度			
総 計	13,600,000 円	4,080,000 円	17,680,000 円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：大衆、イメージ、視覚表象

1. 研究開始当初の背景

アニメをはじめとして、日本のポップ・カルチャーへの国際的な関心が高まるなかで、はたして大衆的な視覚表象（イメージ）は文

化遺産たりうるのかという問題を、近代の、主として日本の大正期の視覚文化に焦点を合わせて、美学・美術史学的な視点から、国際的な協力関係のもとで——アメリカの研究者

と協力して——議論することが当初のねらいであった。このような文脈から見ると、一方では、大衆的な視覚表象についての研究は相当の蓄積量に達しており、枚挙に遑がないと言ってよい。しかし、個別的研究が詳細を極めるのと裏腹に、研究は概して断片的・孤立的であり、「大衆的イメージ」としての全体像を欠いている。他方、「文化遺産」の概念に関してはある偏重を指摘せざるを得ない。一つは、近年国際的レベルでの高まりを見せるユネスコの世界遺産がヨーロッパ偏重という批判を受けているように、特定地域への偏重が早急に克服すべき難点としてしばしば話題にされている。しかし地域的偏重だけでなく、価値的偏重とでも言うべき現状があつて、それは、「文化遺産」の先駆形態である「国宝」が明らかにそうであったように、従来「文化遺産」は、自明のこととして、いわゆるハイ・アートだけを視野に収めてきたと言ってよい。

2. 研究の目的

本研究は、このような背景のもとで、大衆的な視覚表象を文化遺産の観点から美学・美術史学的に考察することを目的とする。具体的には、次の2つの課題を達成することを目指す。すなわち、第1の課題は、日本において「大衆」がはじめて成立した大正期に流通していた紙媒体の視覚文化（ポップ・カルチャーあるいはサブ・カルチャーに属する静止的・モノ的な表象のうち、大衆的メディアの世界において大量に流通して消費される「複製図像」に代表される二次元的な視覚表象）に注目し、可能な限り詳細かつ広範囲な資料調査に基づいて、その全体像を明らかにするという、どちらかと言えば美術史学的な課題である。第2の課題は、当該期の視覚文化を構成する大衆的イメージが文化遺産として継承されるとするならば、いったいどのような範囲のモノが、どのような形態で、いかなる理由によって、何を記念するものとして選ばれるべきかについて考察するという、美学的な課題である。もちろん、これら2つの課題は相互に分離したものではありえない。本研究の最終的な目標は、これら2つの課題に応えようとする美学的・美術史学的な研究を相互に撚り合わせて、大衆的イメージの文化遺産としての価値について理解を深めることにある。

3. 研究の方法

研究代表者・研究分担者・連携研究者、ならびに研究協力者は、美学グループと美術史グループに分かれ、それぞれの研究分担（美

学／商業美術／装幀挿絵／雑誌写真／印刷版画／映画芸能／マンガ紙芝居など）に応じて、個別的に、美学・美術史学的な問題を提起し、解決することを試みるとともに、次の2つの種類の共同プロジェクトを行うものとする。

(1)第1に、国内の研究者が個別的な研究成果を、主として「大正イマジュリィ学会」のシンポジウムにおいて、相互に確認し、総合化すること。

(2)第2に、国内と海外の研究者が、「文化遺産としての大衆的イメージ」公開講演会を国際シンポジウムとして開催し、日本の内と外から、大衆的イメージの文化遺産としての価値を議論することである。

4. 研究成果

4年間の研究は、(1)の点では、総ページ数391頁（和文）＋44頁（英文）に及ぶ大部の研究成果報告書『文化遺産としての大衆的イメージ——近代日本における視覚文化の美学美術史学的研究』（2012年3月）に、そして(2)の点では、3度に及ぶ国際シンポジウムに結実した。

報告書に収められた論文のテーマは多様である。すなわち、美学的なものとしては、物質の批評可能性（チューザレ・ブランディの『修復の理論』）／文化財保存における価値判断の問題（ルーモールと中世美術）／近世的な絵画評価（茶会記にみる中国水墨画の鑑賞）／近代的な古代解釈（古代文献の受容とその図像化）／仏像の近代的評価（鎌倉大仏）などである。また、美術史的なものとしては、美術と観光（仏像写真）／スタンプ蒐集と観光／活動写真の批評（批評誌『キネマ・レコード』）／大阪出版文化（金尾文淵堂）／「大大阪」時代のチラシ（丹平ハウスと赤松麟作）／資生堂の視覚表象（高木長葉と梶田半古）／商業美術（里見宗次）／近代挿絵画家／「挿絵文化展」／少女イマジュリィ／高島華宵の少女像／大正の趣味と版画／岸田劉生と写真などがある。

個々の内容については、報告書を参照していただければ幸いであるが、本研究では、これら2種類の美学的・美術史的な問題意識が衝突あるいは融和することによって、「大衆的イメージ」が過去において果たしていた、そして未来において果たしうる豊かな機能をあぶり出すという第1の作業と、「文化遺産」の概念を拡大し鍛え上げるという第2の作業を、両者の有機的連関のうちで、相当程度、遂行することができたと自負している。とはいえ、2つの問題意識を、対話的な関係において、相互に撚り合わせることに終着点があるというわけではない。今後とも、これら美学的・美術史学的な研究の相互参照を粘り強く遂行して行く必要があるにちがいな

い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 44 件)

- ①岸文和「明治二八年の写真術——『京名所写真図絵』に見る観光のまなざし」『文化学年報』第 61 輯、2012 年、pp. 47-66、査読なし
- ②中谷伸生「近世近代の日本絵画における美術交渉」『東西学術研究所紀要』第 45 輯、2012 年、p. 45-53、査読なし
- ③及川智早「ワニ(「和迹」・「鰐」)とはなにをさすか——『古事記』・『日本書紀』に載る存在の近代における解釈と受容を中心に」『國學院雑誌』第 112 巻 11 号、2011 年、p. 265-281、査読なし
- ④佐藤守弘「鉄道写真蒐集の欲望——20 世紀初頭の日本における鉄道の視覚文化」『京都精華大学紀要』第 39 号、2011 年、pp. 49-72、査読あり
- ⑤加藤哲弘「視覚芸術における連続的物語叙述——「異時同図」概念の再検討」『京都美学美術史学』第 10 号、2011 年、pp. 1-384、査読あり
- ⑥加藤哲弘「方法としての受容美学」『美術フォーラム 21』第 23 号、2011 年、pp. 26-30、査読あり
- ⑦前川修「模図マンガとマンガの恐怖」『美術フォーラム 21』第 24 号、2011 年、p. 82-87、査読あり
- ⑧岸文和「浮世絵に見る西洋受容——北斎画「富嶽三十六景」の遠近法を中心に」深圳画院編『第 5 回深圳水墨論壇論文集』2010 年、pp. 191-228、査読なし
- ⑨中谷伸生「日本近世近代絵画史研究の方法と東アジア」アジア文化交流センター編『アジア文化交流研究』第 5 号、2010 年、pp. 449-460、査読なし
- ⑩及川智早「絵葉書の中に棲息する人魚」『彷彿月刊』2010 年 3 月号、pp. 16-17、査読なし
- ⑪山田俊幸「杉浦非水と富本憲吉の時代」『杉浦非水の眼と手』展カタログ、宇都宮美術館、2009 年、pp. 218-225、査読なし
- ⑫佐藤守弘「浪華写真のヒストリオグラフィ——『月の鏡』と「写壇今昔物語」」『美術フォーラム 21』第 17 号、2008 年、pp. 103-108 査読あり
- ⑬前川修「写真の語りにくさ——写真論の現在」日本記号学会編『新記号論叢書セミオトポス 5』2008 年、pp. 92-109、査読あり
- ⑭Kan SHIMAMOTO, “The Art Catalogue and Its Ecriture: From Representation of Space to Space of Representation”, JTILA, vol. 33, pp. 1-14, 2008 年、査読あり

〔学会発表〕(計 21 件)

- ①中谷伸生「英日における近世絵画コレクションとアーカイブ化」、CSAC II 研究例会、2012 年 1 月 28 日、於関西大学以文館
- ②金田千秋「チャーザレ・ブランディの修復理論の概要」、大正イマジュリィ学会、2011 年 12 月 11 日、於京都精華大学
- ③Kan SHIMAMOTO, Pour une histoire de la collection éditoriale des livres d'art - France et Japon, 2011 年 12 月 4 日、Institut national de l'histoire de l'art, République française
- ④Morihiro SATO, “Vernacular Photographs as Global/Local Objects”, Teaching and Research of Art History in a Global World, 2011 年 11 月 18 日、於サン・パウロ連邦大学、ブラジル連邦共和国
- ⑤石田美紀「映画のポスター、ポスターの映画」、大正イマジュリィ学会、2011 年 7 月 24 日、於西宮市大谷記念美術館講堂
- ⑥Fumikazu KISHI, Aesthetics of “Kawaii”: Through the Analysis of Contemporary Japanese TV Advertisements”, Aesthetics and Cultures. The 1st Polish-Japanese Meeting: Exchanging Experiences, 2011 年 5 月 24 日、Jagiellonian University in Cracow, Poland
- ⑦石田あゆ「戦争は女性美を抑制するか——1931-1945 日本の化粧品会社の販促活動」シンポジウム “Inventing Commercial Culture in East Asia: A historical study on Advertising”, 2010 年 12 月 11・12 日、於香港大学
- ⑧Fumikazu KISHI, “The View of the Mountains Was “Amusing”: Surveying the Application of the Japanese Aesthetic Term Omoshiroshi to Nature”, XVIIIth International Congress of Aesthetics in Beijing, 2010 年 8 月 13 日、於北京大学
- ⑨中谷伸生「近代挿絵画家の分類試論」大正イマジュリィ学会、2010 年 7 月 31 日、於同志社大学
- ⑩Morihiro SATO, Landscape and Nostalgia in Early Twentieth Century Japanese Pictorialist Photography”, Colloque international: L'essor de la photographie au Japon, 1900-1945, 2009 年 12 月 4 日、於パリ日本文化会館
- ⑪金田千秋「文化遺産と価値の問題」、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務、2009 年 9 月 21 日、於東京国際フォーラム
- ⑫Tetsuhiro KATO, “Aby Warburg in Japan: An Extrapolation” Transcultural Visuality Workshop Series, No. 1, 2009 年 3 月 11 日、於ハイデルベルク大学

〔図書〕（計 18 件）

- ①岸文和「テレビ CM の芸術学——「かわいい」物と人を欲望する」『危機における共同性』、風媒社、2012 年、pp. 163-186
- ②石田あゆ「女性イメージの変容」『戦争の社会学ガイドブック』、創元社、2012 年、近刊予定
- ③佐藤守弘『トポグラフィの日本近代——江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』青弓社、2011 年、214 頁
- ④岸文和「趣味と蒐集の地勢学——大正 14 年の《趣味国名所図会》を読む」近畿大学日本文化研究所編『日本文化の攻と守』風媒社、2011 年、pp. 44-72
- ⑤中谷伸生・内田慶市『東アジアの言語・文化・芸術』、丸善出版、2011 年、396 頁
- ⑥山田俊幸「アンティーク絵はがきの誘惑展」図録、信州新町美術館、2011 年、pp. 6-8 頁
- ⑦熊田司・橋爪節也編『森琴石作品集』東方出版、2010 年、252 頁
- ⑧中谷伸生『大坂画壇はなぜ忘れられたのか——岡倉天心から東アジア美術史の構想へ』醍醐書房、2010 年、616 頁
- ⑨山田俊幸他編『大正イマジユリイの世界——デザインとイラストレーションのモダニズム』ピエ・ブックス、2010 年、192 頁
- ⑩石田あゆ「大阪出版文化と金尾文淵堂」吉川登編『近代大阪の出版』創元社、2009 年、pp. 97-128
- ⑪及川智早「降臨神話におけるニギハヤヒとニギ——『先代旧事本紀』天神本紀と『日本書紀』神武紀との関連を中心に」菅野雅雄博士喜寿記念刊行会編『記紀・風土記論究』おうふう、2009 年、pp. 594-611
- ⑫及川智早「イザナキ・イザナミ神交合譚の近代における受容の一側面——婚礼の象徴としての男女神の図像」青木周平先生追悼論文集刊行会編『古代文芸論叢』おうふう、2009 年、pp. 803-817

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金田 千秋 (KANEDA CHIAKI)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：80224624

(2) 研究分担者

加藤 哲弘 (KATO TETSUHIRO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60152724

研究分担者

島本 澣 (SHIMAMOTO KAN)
京都精華大学・美術学部・教授
研究者番号：30154280

研究分担者

山田 俊幸 (YAMADA TOSHIYUKI)
帝塚山学院大学・リベラルアーツ学部・教授
研究者番号：10200726

研究分担者

及川 智早 (OIKAWA TOMOHAYA)
帝塚山学院大学・リベラルアーツ学部・教授
研究者番号：90223700

研究分担者

佐藤 守弘 (SATO MORIHIRO)
京都精華大学・デザイン学部・准教授
研究者番号：10388176

研究分担者

石田 あゆ (ISHIDA AYU)
桃山学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：70411296

研究分担者

岸 文和 (KISHI FUMIKAZU)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：30177810

研究分担者

前川 修 (MAEKAWA OSAMU)
神戸大学・文学部・准教授
研究者番号：20300254

研究分担者

中谷 伸生 (NAKATANI NOBUO)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：90247891

研究分担者

橋爪 節也 (HASHIZUME SETSUYA)
大阪大学・総合博物館・教授
研究者番号：70180817

(3) 連携研究者

鈴木 廣之 (SUZUKI HIROYUKI)
東京学芸大学・教育学部 教授
研究者番号：00132704

連携研究者

太田 孝彦 (OTA TAKAHIKO)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：70098169

連携研究者

石田 美紀 (ISHIDA MINORI)
新潟大学・人文学部・准教授
研究者番号：70425007